

REGENSBURG

レーゲンスブルク便り

文と写真: 吉村美佳(レーゲンスブルク在住)

第3回配信 2015. 10 月特大号

(次回配信は11月号となります。)

朝日出版社

〒101-0065 東京都千代田区西神田3-3-5 TEL: 03-3263-3321

[URL] <http://www.asahipress.com>



ジャズ・ウィークエンド

第34回ジャズ・ウィークエンド



ユージェント・ジャズ・オーケストラの演奏

毎年恒例のジャズ・ウィークエンドが今年も7月に行われました。木曜日から日曜日までの4日間12の会場で95ものステージで。他の都市で真似出来ないのは、それらが全て無料であること。街を歩いているだけで、あちこちの広場から流れる各種ジャズ。プログラム片手に適当にたどり着き、そのジャズが好みのものでなければ他の会場に移動すれば良い。場所によってはビールを片手に、または食事をしながら聴くことも出来る。子供連れでも気兼ねすることなく出掛けられる。

ソロやデュエット、ビッグバンド、ジャズのスタイルも色々。地元のジャズ・バンドは勿論のことドイツ全土からも集まった演奏家たち。

『カイザージャザー』という1973年に結成したベテラン・グループは今年も登場。なんと、ドイツで活動中のジャズグループの中でも最古のグループなのだそう。メンバー7名、とってもハイカラなおじいさんたち。

期間中良い天気に恵まれ、いつも以上に賑わっていた。



カイザージャザーの演奏



ステージの脇で楽しそうに踊り続ける二人

第12回オールドタイマー・ラリー



大聖堂の南側にある広場にオールドタイマーが並ぶ

35年以上前に製造された車のみが集まるクラシック・カーのイベントが今年も行われました。例年100台以上集まるのだが、今年は過去最高161台が参加。

出場の申込みは深夜0時丁度にネットで開始。参加費300ユーロにも係らず、申込み開始後16分で出場枠が埋まってしまったようです。改めて参加者リストを見てみると、参加の車のうち約半分はレーゲンスブルクやその近郊から。

車メーカーに注目すると、ポルシェだけでも27台。キャデラックもあればフェラーリもある。日本車では、マツダのファミリアとトヨタのセリカ。

このイベントは、速く走るのではなく、200kmのコースに設置された12カ所の測定地点で、予定通りの時間に通過したかどうか、でポイントを稼ぐシステム。助手席に乗った人がコースマップを持ち、ストップウォッチを使って、運転手をサポートする。

スタートは1分おきに登録順に行われるが、ラリーの前後には、広場で写真を撮影したり持ち主と親しく話したり出来るのが一般市民には魅力的。



到着するオールドタイマー



フォルクスワーゲンT1。自家用車として現役だが、スピードが出ないので高速道路は走らない。

第31回アラバ自転車レース



250kmコースで1位となった男性へのインタビュー

毎年7月最後の週末に行われる自転車レースは、参加人数6000人以上という、ドイツ国内で開催されるあらゆる自転車レースの中で最大規模のもの。

マウンテンバイク用の3コースと、ロードレーサー用の5コースがありますが、後者には家族で参加できる56kmのコースも含まれます。

参加者の服装は本格的。ヘルメットは勿論、サング

ラスも手袋も当たり前。いかなるスポーツでもドイツ人はまず服装から入ります。

最もハードな250kmコースを走る人は、朝6時からスタート。朝の気温はおよそ10度だったようですが、日中で23～25度晴天と最高の自転車日和で、今年は約6600人が参加。



小さな子供の自転車は親と連結して参加



観客と走り終わった人たちがビールを楽しむ

参加費用は、早期に申し込むと割引になり、最短コースで一人28ユーロ。12歳以下は、親の同伴があれば無料で参加できるよう。子連れの家族は、スピードを競うというよりもほのぼのとした雰囲気です。ゴール直後には協賛企業からバナナの配布あり。その後は勿論ビールで乾杯。そう、ここはバイエルン！

レーゲンスブルクに新しいサッカー場が



新しいサッカー場

レーゲンスブルクにホームを置く、SSVヤーン・レーゲンスブルクが創設されたのは1889年。実は、ブ

ンデスリーガ『FCバイエルン・ミュンヘン』よりも歴史は古い。

今までは、旧市街西部に「ヤーンスタジアム」を持っていたのですが、1926年に完成したものの、80年代から新しいサッカー場の建築が検討されていました。

2003/04年に第2ブンデスリーガとなった時点で、東の郊外ブルグワインティングに建設が決定。

その後成績が思わしくない方向に向かい、現在はレギオナルリーガに落ち込んだものの、念願の新しいスタジアム「コンチネンタル・アリーナ」（収容能力約15000人）がついに今年7月にオープンしました。

オープニングの試合結果？

それは、言わない方がいいかもしれません…。

レーゲンスブルクで日本語を学ぶ人達

市民学校や大学で、日本語を学ぶドイツ人はたくさん。札幌出身の先生がその多くの学生を育てているのだが、日本人との交流の場所提供を目的の一つとして、毎年日本食レストランで食事会が開催される。

ドイツ人参加者の日本語レベルはまちまち。日本でのワーキングホリデー経験者も、企業から横浜の支店に派遣される予定の人もある。

勉強を始めたきっかけも、漫画が好き、合気道をしているから、語学が好きだがアジア系の言葉はまだしたことがないから、など。

初対面の人のお話も、日本語という共通のテーマがあるので盛り上がる。

また、参加する日本人にとっては、大学や語学学校に留学中の日本人に出会い、久しぶりに会う顔見知りの日本人と会話出来るのも魅力。



レーゲンスブルクで日本語を学ぶ人たち

夏のレーゲン川

レーゲン川がドナウに流れ込むのは、東西に2857km流れるドナウが一番北に持ち上がった地点。



レーゲン川沿いに住む人は自家用カヌーで楽しむ

丁度そこに1950年前ローマ人が砦を作り、街の歴史が始まりました。

「レーゲン川の流れ着く場所にある砦」というのが、レーゲンスブルクの街の名前の由来です。

今回ここで注目するのは、ドナウの支流レーゲン川。日中気温が30度を越すような夏、公共の川遊びスポットは、16時以降には子供連れ家族連れで賑わいます。お砂場セットを持った子供、敷物とビール、ときにはBBQを楽しむ若者グループ、時間が遅くなると、飼い犬を連れた人々が集まってきます。今年は水位が低かったので、中州として現れた砂浜でギターを弾くビキニ姿の女性にも出会いました。

そんなレーゲン川に面した所に住む人達は、庭から直接レーゲン川に降りてカヌーに乗ったりもします。

文化財公開日



一般公開されるパッサウ北部の水力発電所

Tag des offenen Denkmals（文化財公開日）というのは、ヨーロッパ全体で年一回開かれるイベントで、大概の国では9月の第2日曜日に開催されます。今年の

入学式

日本では春ですが、ドイツ・バイエルン州では9月半ばが新学期のスタートです。

小学1年生の場合、入学式は両親も参加するのですが、ちょっとお洒落をした人に混じって、普段着で参加する人もいます。校長先生の話と在校生の合唱などがありますが、日本のように整列して行うような儀式ではありません。担任の先生が新1年生とその親達の前で紹介され、担任が各自の生徒を引き連れて教室へ移動し、あとは担任の先生に任せられている。先生と子供達が学校生活第一日目を過ごす間、祖父母達はシ

テーマは産業。レーゲンスブルクは毎年力を入れているのですが、毎年似たような物件が公開されるので、今年はちょっと遠出して、パッサウ近くで公開された、水力発電所まで行ってきました。1920年代にドナウに作られた発電所で、水門及びその司令室を見学した後、発電所のタービンなど、1時間半程かけて途中説明を聞きながら、ゆっくり見学してきました。

建設当時の写真がパネル展示されており、スーツ姿に帽子をかぶったエンジニアたちの姿や、建築途中の様子がよく分かるようになっていました。

この公開日は、ドイツ各地の公開物がネット上で検索できるので、計画して、各自の興味に応じたものが見られます。今の時代はスマホのAppなどでも情報入手ができるので、とても便利です。

キャンパンを飲みながら、知人と談話をし、顔見知りの人同士で時間を過ごす。

ドイツの新1年生の象徴と言えば、Schultüte（シュールトゥーテ）という円錐型の紙製の筒で、中には文房具やおやつが入っている。これを持って学校に登校する（勿論背中には、ランドセルを背負って）のが習わしである。

ちなみに、小学校卒業後に通うギムナジウムでは、全校集会のようなものがあるだけで親の参加はない。そういえば、小学校の卒業式たるものも存在しない…。



右奥が在校生、手前のランドセルが新1年生



父母はシャンパン片手に時間を過ごす